

(別紙)

6 主な事業に関する調べ

事業名		県立高等学校トイレ洋式化加速事業				
施策の実施状況、成果・進捗状況・問題点等						
(単位：千円)						
当初予算額	補正等予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	
89,500	(2月) △1,000	88,500	79,689	0	8,811	
1 主な事業の実施状況						
3ヵ年（令和6年度～令和8年度）整備計画を元に、実施可能な箇所から改修を実施し、16校109器の洋式化を行った。						
2 事業の成果（改善状況）・課題等						
（成果）						
・令和5年度末時点で49.2%であった県立高等学校の教室棟及び寄宿舎のトイレ洋式化率を57.4%（全体トイレ数1,281器のうち洋式トイレ数735器）に引き上げた。						
（令和6年度事業における改善）						
・令和6年度事業の予算編成時には4校の和式便器179器を改修し、当該4校の洋式化率を100%にするという目標を立てていたが、全てのブースを計測したところ、ブースを拡張しなければ洋式化できない箇所が想定より多いことが判明した。そのため、学校単位での洋式化ではなく、大きな改修が不要で、簡易的な工法での洋式化が可能な箇所から改修を進めることとした。						
（令和7年度予算要求に向けた改善）						
・当初は3ヵ年（令和6年度～令和8年度）をかけて洋式化を進める予定であったが、現地確認や技術職員との協議を進めていった結果、拡張工事が必要なブースが想定よりも多かったこと及び1器あたりの整備金額が想定を大幅に上回ったことにより、5ヵ年（令和6年度～令和10年度）の整備計画に見直すとともに洋式化の対象も普通教室のある棟及び寄宿舎の生徒用トイレに変更した。						
		R6(実績)	R7	R8	R9	R10
3ヵ年計画	整備数	109 器	180 器	178 器	－	－
	洋式化率	57.4%	73.5%	87.5%	－	－
5ヵ年計画	整備数	109 器	37 器	72 器	59 器	47 器
	洋式化率	57.4%	62.3%	67.9%	72.5%	76.2%
※実業系高校で使用頻度の高い実習棟のトイレについては、普通教室棟のトイレ洋式化が完了した後、学校の在り方検討の結果などを踏まえながら個別に検討を行う予定である。						
・次年度以降は迅速に洋式化が進むよう、簡易的な工法での改修が可能なトイレと、大きな改修が必要なトイレを整理し、簡易的な工法で学校が発注する場合の統一的な仕様書を示すことで効率的に発注ができるようにした。						
		メリット		デメリット		
在来工法		工事発注のため、ブース改修も同時に行うことが可能		施工期間が長く、階下の工事が発生する		
簡易工法		施工期間が短く、階下の工事が発生しない		施工業者が少ない		

(別紙)

6 主な事業に関する調べ

事業名	海洋練習船「若鳥丸」代船建造事業				
施策の実施状況、成果・進捗状況・問題点等					
(単位：千円)					
当初予算額	補正等予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
679,033	(6 月) 47,999 (2 月) △22,582	704,450	703,703	0	747

1 主な事業の実施状況

- ・令和4～5年度で検討した基本設計により、令和6年5月に入札を実施したが応札は1者のみ、予定価格を大幅に上回り不落札となった。要因は主として資材や人件費等の高騰によるもの。
- ・更なる仕様の見直しを図ったうえで、6月補正において船価増額のための予算を措置するとともに、造船所の入札意欲の喚起のため建造工期を延長し、令和6年7月に再入札を実施した。
- ・再入札の結果、2者の応札があり新潟造船株式会社（新潟県新潟市）が落札した。

契約額：2,343,000,000円

- ・令和6年10月の本契約以降、建造に向けて詳細設計協議を進めている。

前金払（3割）：702,900,000円

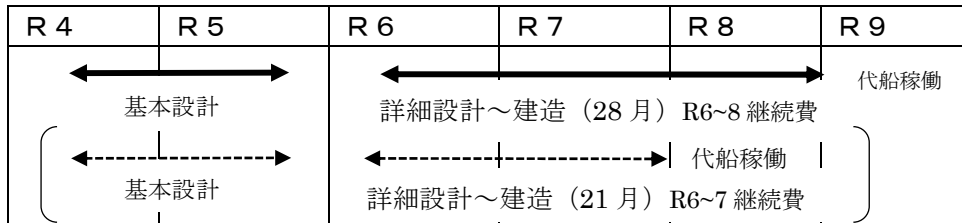
《参考》

○若鳥丸代船の概要

総トン数：400トン 航行区域：国内航海 主要寸法：長さ約43m、幅約9m

最大搭載人員：49名〔乗組員17、教官2、生徒28、調査員2〕

○建造スケジュール【令和9年2月25日竣工予定】



※下段は当初のスケジュール

○継続費の状況

(単位：千円)

年度	事業費	財源内訳		
		国庫	起債	一般財源
R6	702,900	105,828	537,000	60,072
R7	0	0	0	0
R8	1,713,872	246,932	1,308,000	158,940
計	2,416,772	352,760	1,845,000	219,012

2 事業の成果（改善状況）・課題等

- ・初回入札後の予算措置及び納期の変更（令和8年3月から令和9年2月に延長）により、再入札では2者の参加を得て競争性が確保され、落札に至った。

- ・再入札に当たっては、議会承認後の入札となり納期の延長が避けられない状況の中、造船所の入札意欲喚起のための建造工期を確保しながら、今後の運航計画や実習等への影響を最小限に抑えることが可能であるとして令和9年2月を納期とした。建造期間としては28月を要し、3か年

にわたる建造となる。他県においても本県の事例を受けて3か年の建造を計画した。

- ・納期の変更により現船の使用期間も延長となったことに伴い、船舶安全法に基づく第一種中間検査の受検の必要が生じた（令和7年冬季に受検予定：予算額101,766千円）。現船は令和7年度で建造から24年目となり、全国の実習船の中でも特に長く使用されているため、経年劣化による不具合の発生が懸念される。
- ・令和6年11月の現船の長期航海時において、調理準備中の失火による厨房火災が発生した。再発防止策として調理時のチェック体制の見直しと併せて、ハード面でも消火装置付きの調理機器への新替などの安全対策を進めた。現船修繕対応と並行して、代船においても同様の調理機器を整備するとともに、船舶作業中の事故防止の観点から安全対策の強化について再検討した。